

図書便り(11月号)

令和6年(2024年)11月21日(木)発行

文責 山瀬

～読書の秋～

昼間は暖かいので、つい薄着で学校に着てしまうと下校時間の風の冷たさに驚かされてしまいます。夜が寒いこの時期は、羽織るものを一枚持っておいた方がいいです。この気温差で体調を崩すことも多いようです。気をつけましょう。

そんな秋の夜ですが、読書をするのにふさわしいというイメージがあります。「読書の秋」の由来は、中国の唐代時代の詩人韓愈(かんゆ)が読んだ漢詩からだと言われています。その詩の中に「燈火親しむべし」とあり、そこから「秋の夜は灯りをともして読書するのにふさわしい」と日本に伝わり、今の読書の秋につながっています。夜は寒くなりつつありますが、ぜひとも灯りをともして読書に親しんでみてはどうでしょうか。

🌸 図書案内 🌸

今月の図書紹介は秋の夜長に読んでほしい本です。気になる本がありましたら、定時制図書室まで。

『ひとり暮らしで知りたいことが全部のっている本』
主婦の友社(編)



引っ越したときすべきことは何?トイレの掃除やカビ対策はどうするべき?簡単に作れるご飯とは? そんな悩みを解決してくれる本です。一人暮らしをする予定がなくとも、家事や防犯、水回りのトラブルなど生活に関する知識が学べます。

『5分後に幸せなハッピーエンド』
エブリスタ(編)



小説投稿サイト「エブリスタ」が主催するタンオエン小説賞「三行から参加できる 超・妄想コンテスト」入賞作品からよりすぐりのものを集めたものです。

短編のためサクサク読める内容で、読み終えた後に、ほっこりする内容ばかりの一冊です。

『美しい日本の詩歌⑥ 谷川俊太郎詩集 いしころ』
谷川 俊太郎(著)



今年の11月にこの世を去られた谷川俊太郎さん。この詩集には「朝のリレー」や「二十億光年の孤独」などが収録されています。「ひとりぼっち」という詩もとてもよく、生きていくことへの力強さをもらえる詩ばかりです。

『おいしい文藝 ぐつつつ、お鍋』
阿川 佐和子 その他(著)



だんだんと肌寒くなる今日この頃です。このような日には鍋が恋しくなります。この本は、鍋に関するエッセイが収録されています。読んでいただけでお腹が空いてきます。長くとも5~6ページの内容なので、隙間時間に読んで

楽しめる内容です。